

まち歩きに着目した熊本市南区の地域特性に関する研究

熊本大学

学生会員

○安永龍一郎

熊本大学政創研

正会員

田中尚人

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

近年、都市部への人口や資産の過度な集中そして少子高齢化などの原因から地方の活力というものが失われてきている。これに伴い、それぞれの地域の特性に沿ったまちづくりというものが必要となり、地方では様々な活動を通して地域の魅力を再発見し、発信することで活性化を図ろうとしている。

筆者たちがまちづくりの支援を行ってきた熊本市南区も地域特性に沿ったまちづくりというものをまちづくりビジョンの中で明記しており、それに伴う活動が地域で行われている。しかし地域特性という言葉だけが先行している傾向があり、実際の地域特性の認識は不十分であると言える。また、まち歩きは、まちを知るための手段としてワークショップなどと同時に社会的関心が高まってきており、南区でもまちづくり活動の一環として取り組みが行われている。まち歩き手帖などが2年にわたり発行されているが、まち歩きの役割や評価の手法は確立されていない。

本研究の目的は、熊本市南区における地域特性を明らかにすることである。そのためにまち歩きに着目、まちづくりとの関係性やまち歩きの役割を把握し、まち歩きコースを分析することで地域特性を検証する。

(2) 論文の構成と地域特性の定義

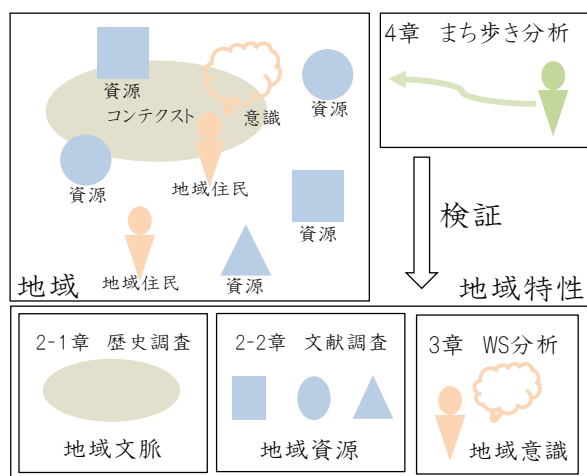


図1 論文構成及び地域特性の定義図

まず2章では熊本市南区の地域資源及び地域のコンテキストの把握を行う。3章では2年間にわた

って行われたワークショップの分析を行い、ここで得られたものを熊本市南区の地域特性とし、4章でまち歩きを行うことで得られた特性の検証を行う。

本研究では地域特性をその地域にある地域資源と地域住民の認識及び地域コンテキストの集合体である定義する。

2. 熊本市南区6地域の地域資源

(1) 熊本市南区6地域のコンテキスト

それぞれの地域のコンテキストを把握するために地域の歴史を調査し整理した。

研究対象地の位置を図2に示す

1) 幸田地域：田迎・田迎南・御幸の3校区から成る。近年は住民増加などで都市化されてきているが施設園芸と農産物で栄えたまちであり、現在も花のまちとして親しまれている。

2) 南部地域：川尻・城南・日吉・日吉東・力合の5校区からなる。かつて舟運として栄えた町であり、地域には歴史的な街並みも残した職人のまちである。

3) 飽田地域：飽田東・飽田南・飽田西の3校区からなる。土地のほとんどが農地であり、昔から野菜の栽培などが盛んな田園地帯である。

4) 天明地域：銭塘・中緑・奥古閑・川口の4校区からなる。地域は沼沢地形であり大部分は湿地帯であったため600年ほど前に開田され、ほとんどの地域が干拓地である。海に面していることもあり、昔から農漁業が盛んなまちであった。

5) 富合地域：杉合村と守富村との合併により生まれた地域である。熊野平野の一部に属する田園地帯として農業が盛んであり、六殿神社や木原不動尊などがありながらも新幹線の車両基地なども点在し、西の方の近代化が進むまちである。

6) 城南地域：杉上・隈庄・豊田の3校区からなる。町村の合併により昭和30年に生まれた。周辺を、雁回山をはじめとする山々に囲まれており、その間を緑川と浜戸川が流れている。原始・古代の遺跡が多く残り豊富な文化遺産に恵まれたまちである。

(2) 諸元から得られる地域資源

熊本市南区6地域にある地域資源を明らかにするために統計情報を調査し整理した。

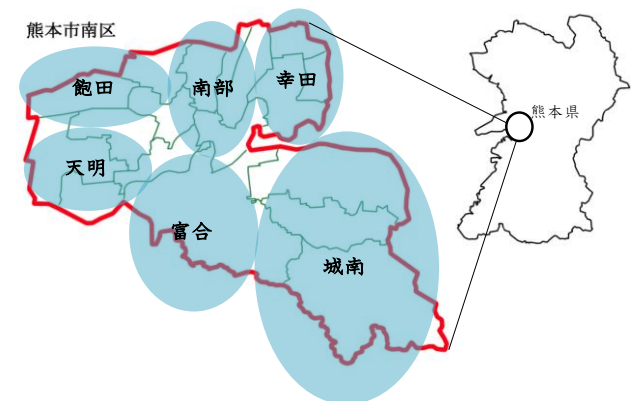


図2 研究対象地

統計からは人口・人口密度・土地利用状況・新築建築状況・公共交通網・文化財・校区内の行事の分析を行った。整理したものを表1に示す。

3. ワークショップを通じた地域意識の分析

南区6地域における住民の認識や地域資源を把握するために、ワークショップの結果を分析し整理した。

(1) 平成24年度ワークショップ：初年度は南区のアクションプランの第1段階である「知る」ことを目的としたブレインストーミングとKJ法を併用したワークショップが南区6地域で行われた。

(2) 平成25年度ワークショップ：2年目は南区のアクションプランの第2段階である「始める」ことを意識付けるためのワールドカフェ形式のワークショップが南区6地域で行われた。

(3) まとめ：2章でまとめた地域資源からは得ることができなかった地域の資源がワークショップからは得られることがわかった。2年間に渡りワークショップを行ってきたが、形式の違いにかかわらず意識の

高い項目が変わらない地域もあり、地域の特色を出しながらも様々な意見を発見することができた。

表2 ワークショップ分析まとめ

		意見数/参加者	意見の偏り	意識の高い項目
幸田	H24	平均より低い	否定的	・自然環境と交通利便性についての意識が高い
	H25	平均より低い	偏り無し	・自然環境と子育てについての意識が高い
南部	H24	平均より低い	否定的	・自然環境と人付き合い・地域文化についての意識が高い
	H25	平均	肯定的	・子育てについての意識が高い
飽田	H24	平均より低い	否定的	・地域文化や自然環境についての意識が高い
	H25	平均より低い	偏り無し	・健康に関する意識が高い
天明	H24	平均より高い	否定的	・地域文化と自然環境についての意識が高い
	H25	平均より低い	偏り無し	・子育てや安心安全に関する意識が高い
富合	H24	平均より高い	否定的	・自然環境や人付き合いについての意識が高い
	H25	平均より高い	偏り無し	・自然環境と子育てについての意識が高い
城南	H24	平均より高い	否定的	・地域文化と自然環境についての意識が高い
	H25	平均より高い	偏り無し	・自然環境についての意識が高い

4. まち歩きから見る地域特性

まち歩きから得られた情報を把握し結果を分析した。まち歩きコースは現在南区がホームページ及び冊子で発行しているものを利用して行った。結果は現在分析中である。

5. おわりに

まち歩きを通してこれまで熊本市南区で曖昧にされていた地域特性というものを明らかにすることができた。

謝辞：本研究を進めるにあたり資料やアンケートの分析等にご協力いただいた熊本市南区役所の方々、ワークショップにご参加頂いた区民の皆様に感謝の意を表します。

参考文献：1) 都市計画基礎調査 熊本市 2013 2) 熊本市飽託群誌 中村安孝 1974 3) 下益城郡誌 中村安孝 1973 4) 城南町史 松本雅明 1965 5) 天明村史 小山正 1961

表1 諸元から得られた地域資源

	人口	人口密度	土地利用	新築建築	公共交通網	文化財	行事
幸田	全体的に多いが、東側は普通	北側は高く、南側は低い	全体的に住宅の割合は高いが、北側は商業が高く、南側は農地の割合が高い	北側は商業の新築が多く、南側は住宅の新築が多い	全体的に利便性は高いが御幸だけ低い	(6個)点在しているが、東側にはない	通年を通して盛んに活動
南部	力合だけ多く、それ以外は普通	日吉だけ高く、それ以外は普通	全体的に住宅の割合は高いが、南側は農地や水面の割合が高い	北側は商工業の新築が多いが南側は新築の建築物は少ない	北側は利便性が高いが南側は低い	(8個)川尻に多く、それ以外はない	川尻が夏と秋に盛んであり、その他の地域はあまり盛んではない
飽田	全体的に少ない	全体的に低い	全体的に農地の割合が高い	北側だけ住宅の新築がみられる	西側だけ利便性が他よりも高い	(0)文化財はない	通年を通して盛んに活動
天明	全体的に少ない	全体的に低い	全体的に農地の割合が高いが、南側は水面の割合も高い	新築の建築物は少ない	全体的に低い	(2個)西側にあり、それ以外にはない	通年を通して盛んに活動
富合	おおよそ区の平均である	全体的に低い	農地と山林の割合が高い	住宅の新築が比較的高い	利便性は区の平均である	(2個)地域の面積は広いが個数は少ない	夏と冬に盛んに活動
城南	おおよそ区の平均である	全体的に低い	全体的に農地の割合が高く、南側は山林の割合も高い	新築の建築物は少ない	北側の利便性が低い	(11個)区で最も多く南側に点在	あまり盛んではない